

3年生保護者様

平成23年度 佐賀県学習状況調査結果の分析について

小城市立芦刈中学校
校長 小森 義美

平成23年4月18日、19日に中学校全学年を対象として「佐賀県学習状況調査」を実施しました。内容は2・3年生は国語・社会・数学・理科・英語の五教科、1年生は国語・社会・数学・理科の四教科および学習・生活に関する調査でした。その結果を分析し、本校生徒の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「観点別学習シート(個人用)」を配布しております。また、家庭学習の時間の確保や朝食喫食等に関しては、ご家庭の協力が必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。ご家庭でもよろしくご指導お願いいたします。

1. 3年生の傾向と今後の指導について

	傾 向	今後の指導について
国語	全体の正答率は、県平均より5.6ポイント上回っている。観点別にみると、「話す・聞く」は8.3、「書く」は9.7、「読む」は8.9、「言語事項」は3.4と、すべてにおいて上回っており、「言語事項」以外は大きく上回っている。	授業では、どの生徒も真剣に取り組むことができているので、今後も継続させたい。単元別にみると、古典に対する苦手意識がやや強く、理解の度合も不十分なので、読みを中心とした丁寧な指導を図っていく。「言語事項」については、ドリル学習や小テストの機会を増やして、いっそうの向上につなげていく。
社会	全体での正答率を見ると、県平均より5.2ポイント上回り、十分達成・おおむね達成の児童生徒の人数の割合が県基準を上回る成績であった。観点別では、「知識・理解」の観点で十分達成の児童生徒が県平均を大きく上回っている。「思考・判断」「技能・表現」でも、県平均をクリアしている。領域別に見ると、「我が国の歴史」「我が国の政治の働き」「世界の中の日本」ともに、県平均を上回っている。	「知識・理解」の観点で十分達成の児童生徒人数の割合が県平均を大きく上回っている一方で、「思考・判断」「技能・表現」では、十分達成の児童生徒の人数の割合は県平均を下回っているが、おおむね達成の割合が多い。これは、文章を読み取る力の不足が考えられ、様々な問題を考えたり、地図や資料の読み取ったりするなどの機会を増やし、「暗記」に頼る学習方法を考え直すきっかけにしていきたい。
数学	全体での正答率は、県平均を上回り、十分達成の到達県基準を上回る良い成績であった。観点別では、県平均と比較して「見方・考え方」はやや上回り、「表現・処理」は大きく上回る結果となっていた。ただ、「知識・理解」については県平均を下回っていた。さらに領域別にみると、「数と式」「図形」については県平均を上回っていたものの、「数量関係」についてはやや下回っていた。また、「これまで学習した語句や数式等を利用して記述する問題」は無答率が高かった。	「数と式」「図形」といった領域や、観点別に見た「表現・処理」がおおむね良好であったのは、これまで2年間続けてきた、毎週末の課題や授業での小テストでの振り返りが定着へ結びついたと考えられる。今後も更なる定着へ向けて、続けていきたい。ただ、「数量関係」については苦手に感じている生徒も多く、これからの授業や課題の中で復習を重点的に行っていきたい。
理科	本校の全体の内容に対する正答率は、59.0%で県正答率の53.8%を5.2ポイント上回っている。評価観点別到達度分布において、「技能・表現」及び「知識・理解」ともに、県平均を上回っている。「思考」においては十分達成の生徒が2.3ポイント下回っているだけで全体的にはどの項目も県平均以上の成果が上がっている。内容・領域別では、どの領域においても十分に達成できており、十分な学力が身につけていると考えられる。	全体的にどの単元・領域においても、十分に成果が上がっているが、「思考」領域がもっと伸ばせるように思われる。とくに「化学変化と原子・分子」分野に関する内容について基礎的内容から応用につながる学習を設定していきたい。傾向として、一分野の内容を苦手とする生徒が多いようなので、実験及びその関連する学習の内容を工夫しながら、関心を持って取り組んでいけるようにしていきたい。
英語	全体的に見て、正答率は県平均を3ポイント下回る結果となった。「おおむね達成」「要努力」の生徒の割合が県平均の値を上回っており、その結果が、県平均を下回る原因といえる。観点別においては、特に表現力を問う問題の正答率が低く、内容領域に関しては、「書くこと」における力が、県平均を下回り、場面に応じて英語で表現することを苦手としている生徒が多いことがわかる。「聞くこと」においては、昨年に引き続き、県平均を上回る結果となった。	授業の初めに行っている、英問英答の取り組みの結果が「聞くこと」に関する結果に表れている。今後も引き続きコミュニケーション活動として行っていき、応用的な表現にも対応できるように、工夫していきたい。また、自分の表現したいことがALT等に伝えられた喜びを感じさせるような表現活動を、積極的に行っていきたい。一方で、「書くこと」に関しての力が不十分という結果から、授業の中で、学んだ内容をいろんな場面で活用していく工夫が必要とされる。加えて、ワークシートやドリルなどの課題を、継続して取り組ませていくことが、今後の課題と言える。

2. 3年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について (○はよい傾向、△は課題と思われる傾向を表わしています。)

- 学校の生活は楽しい、友達に会うのは楽しいと答えている生徒がとても多い。
- 好きな授業があると答えている生徒の割合が、県平均と比べて多い。
- 将来の夢や目標をもっていると答えた生徒が多い。
- △ 平日1時間以上勉強している生徒は41.9%で、県平均の63.1%と比べて少ない。
- △ 予習をしている、復習をしている、テストで間違えた問題を後で勉強していると答えた生徒の割合が、どれも県平均よりも少ない。
- △ 朝食を毎日食べていると答えた者が76.7%いるが、県平均の84.4%より少ない。